

留学生教育支援プロジェクト『お国自慢世界遺産発表会 in 佐渡』 を企画・実施して

人文学部
橋本 博文、菊地 真

旭町学術資料展示館
清水 美和

本事業の企画としては、世界遺産登録をめざしている佐渡に留学生を案内し、佐渡金銀山を始めとしたその現地の遺跡・神社仏閣・近代化遺産・博物館・景勝地などの歴史や文化や自然に触れることによって、その重要性を認識してもらうことと、その取り組みの様子をも実感してもらうことを最大の目標とした。また、トキ保護センターの見学をとおして自然環境の保護の活動も知ってもらうことも意図した。

さらに、佐渡の能舞台の見学と相川小学校前校長の逸見修氏の解説から異文化理解を深めること、加えて大桃一浩氏による版画解説の受講と佐渡版画村美術館の見学、裂織りあるいは無名異焼の体験学習というように盛り沢山の内容となった。

そして、最大のイベントである『お国自慢世界遺産発表会 in 佐渡』を佐渡市との共催で佐和田にあるアミューズメント佐渡の一室をお借りして開催することにした。これは留学生に母国の世界遺産（世界遺産候補や登録をめざしているものを含む）の中から、自由に「お気に入り」のものを選ばせて紹介させるというものだった。それは母国愛にもつながり、また一方で他国の理解にも役立つと思ったからである。他方、佐渡の方々にとっても世界遺産登録の気運を高めることになるのではないかと考えた。また、日本語で発表させることによって日本語教育にも益し、グループで行うことによって、チームワークも育むことが期待された。

なお、事業の成果の検証をすべく本学旭町学術資料展示館と地元佐渡博物館で留学生の製作した「お国自慢世界遺産」のポスターや体験学習の裂織り、無名異焼の作品などの展示を行った。本事業は留学生教育に大学博物館をも採り入れた試みである。

平成21年度「学習・教育研究フォーラム」発表当日は、口頭発表の他にポスターセッションを行った。口頭発表後、参加日本人学生から、われわれの取り組みに留学生と教員だけでなく、日本人学生も関わらな

かったのかという質問が出た。もしも日本人学生を関わらせるとなると、先ず日本人学生の教育をしなくてはならないという課題に突き当たることになる。留学生と日本人学生を同時にというやり方も選択肢としてはあろうが、それも効果となると難しい。正直言って、教員だけでは、かなりの負担で、きめ細かい留学生へのサポートとなると、やはりチューターのような存在が必要となる。そこで、まさにその役割を果たしたのが、助教の菊地だった。

その他、ポスターセッション時に、教員からの意見で、より多くの留学生を参加させることはできなかったのかという質問があった。今回の企画を実施するのに当たり、最初ガイダンスを行ったが、当日50名を超える参加希望者が集まった。予算規模からして一泊二日の宿泊費と交通費、施設見学料を全額負担するとすると、留学生の人数は、18名に絞らざるを得なかった。1人当たりの補助率を下げて、例えば半額補助にすれば、2倍の36人の留学生を参加させることはできた。しかし、今回の引率教員の人数やプログラム内容からすると18名という規模は適切ではなかったかと推断される。

新年度に入って、今年度も佐渡へ留学生を引率した見学会が挙行されたことを新聞で知った。60名を超える規模であったという。「恒例」のようなので、その実施体制もノウハウも確立されていることと思われる。われわれの取り組みを継続させることの重要性をポスターセッション時に指導教員から指摘・助言されたが、「恒例」の佐渡への見学会とどう調整させるのかが課題と認識された。

なお、発表会当日には間に合わなかったものの、われわれの事業報告が活字になっているので参考にされたい。問い合わせ先：橋本（内線番号6449）まで
*『平成21年度留学生教育支援プロジェクト 新潟大学留学生お国自慢世界遺産発表会 in 佐渡—記録集—』